

尚王家継承文化遺産を国の重要

琉球王国の工芸技術と美術的価値



玉冠の簪の花部
—おおうかんのかんざしのかぶ—

美御前御揃—ヌーメーウスリー—

国王の私的な生活の場である御内原での祝宴で用いられた三御飾りの御道具揃い。中央に鳳凰と牡丹文様の国王専用の金杯と銀の脚杯や杯洗を置きます。右側には左巴紋と牡丹で飾った深い蓋の二段重ねのウクファン（御籠飯）、左側に多様なガラス玉で飾った錫の瓶子ウタマスキ（御玉貫）をしつらえます。これらの御道具類は王国の儀式を説明していく上で重要な資料で、特に金工品は僅少な琉球の金属工芸品として貴重です。



玉冠—ぎょくかん—
国王が正装の新しい装束とともに着用して用いた水晶・碧玉・チャープイと

王権を象徴した「宝珠双龍文」で袖には振りが有り、王子の衣裳とされています。龍の鱗やひげには、極細の筆で墨の輪郭線が施された精緻な技法で制作されています。

黄色地鳳凰瑞雲霞文様紅型紋紗衣裳

—きいろじほうおうずいんかすみもんようびんがたもんしゃいしやう—

画面から今にも飛び発たんばかりの勢いの鳳凰が見事な紅型技術で表現されています。紅型はかつては「カタチキ」と呼ばれ、デザインには王府の絵師が関わりました。琉球国内用で、主に王族や上流階級が着用した染め物です。



黄色地格子鳥二の字文様紺苧麻衣裳

—きいろじこうしとりのにじもんようかすりちよまいしやう—

黄色地に紅で格子、藍で鳥と二の字を表した斬新な紺。格子と紺の組み合わせは「ティジマ（手縞）」と呼ばれます。大柄であてやかな紺のデザインからは、王家の幼児衣裳に相応しい風格が漂います。

色絵紅葉文風炉

—いろえもみじもんふうろ—

良質の白色陶土を筒形に轆轤成形をした壺屋焼の風炉。上に金をのせて、南蛮渡りの丁字を焚いた丁字風炉でしょう。白地に色絵の壺屋焼は類例品が少なく、本品は最上品として珍重されたと思われる。



黒漆葡萄螺細箱

—くろろうるしぶどうらでんはこ—

重ね色紙形で唐戸面の瀟洒な箱。印籠蓋造りで内に懸子を納めます。薄貝の螺鈿で、表を葡萄や七宝繋ぎで、懸子を水仙や梅樹、菊唐草で飾ります。貝には毛彫りや金箔の伏せ彩色が施された精緻な技法です。



シンポジウム

琉球王朝の美 「尚家継承文化遺産」

日時：平成14年10月9日(水)
午後6時30分～
場所：パレット市民劇場
(パレットくもじ9F)

展覧会

重要文化財指定記念 「尚家継承美術工芸品展」

日時：平成14年10月4日(金)
～13日(日)
場所：那覇市民ギャラリー
(パレットくもじ6F)



御絵図帳—みえずちやう—

王府が久米島や宮古・八重山などに税として織らせた貢納布の図柄見本帳で、尚家には7冊残っています。格紙に染料や顔料で、原寸大に描かれた紺柄370点が貼付されています。